

セブン-イレブン記念財団

No.69

Spring

春

2022

# みどりの風

特集

樹上の生活者





「どこかに木登りを補助してくれる団体があるだろうと考え、勢いでサポートを買って出たギヤスライトさんだったが、当時そんな団体はどこにもなく、途方に暮れてしまう。

**ギヤスライト** でもここで諦めたら、僕はドリームブレイカーになってしまふ。日頃から「夢は大切だ」と言っていた僕が、他人の夢を壊すわけにはいきませんでした。それでさらに調べると、アメリカのアトラクタに安全に巨木に登るためのプログラムがあった。問い合わせると「重度のチャレンジジャーには教えたことがない」と言いつつも、「基本は同じだから、まずは君が登り方を身につけて教えてあげるといい」と、技術を伝授してくれました。

尊敬していた祖父は「自分に夢がないのなら、他人の夢を応援しなさい。それが自分の夢になるから」と言っていました。このとき頑張れたのはその言葉を実践するためですね。チャレンジジャーの女性は見事ジャイアントセコイアの樹を78mも登ることができました。登り終わった後の彼女の「私はチャレンジジャーだ!」という叫びは忘れられません。

## ドリームメーカーでいたい

「このときの様子はドキュメンタリー番組にもなり、他のチャレンジジャーたちからもツリークライミングの相談が舞い込むようになった。

**ギヤスライト** 一度は執筆活動中心の日々に戻ろうと思っていたので迷いましたが、僕はやっぱりドリームメーカーでいたい。そこでツリークライミングジャパンという組織を立ち上げ、レクリエーションを提供するだけでなく、アーボリスト(樹護士)や森林保全活動にもつなげていくことにしたんです。

アーボリストとは、ツリークライミングの技術を用いて高木に登り、要らない枝を剪定するなど、樹々の健康を管理する資格を持った人のことだ。

**ギヤスライト** 私たちの団体はカリフォルニアの森を購入して環境整備に励んでいたのですが、驚くことに2019年の山火事でも、その部分は焼けなかったのです。アーボリストの活動によって樹と樹の間隔が適切に保たれていたのと、日本の段々畑のような形状で植わっており地面に水が保たれていたことで、火の手



障がいを抱えながらも前向きに生きるフィジカルチャレンジジャーの子供たちに向けたツリークライミング体験会も実施

が広がりにくかったと考えられます。翌年の火事では世界の約15%のジャイアントセコイアの森が消失したといわれますから、森を整えることの重要性を改めて実感しました。

こうしてツリークライミングの活動規模は着実に大きくなっていき、それと同時に、チャレンジジャーに刺激された子供たちをはじめ体験志望者も続々と増えていった。

**ギヤスライト** そんな子供たちのためにスタートしたのが、普通の公園の樹に登る、よりレクリエーション性の高いプログラムです。日本の公園は基本的に木登り禁止。でも、ツリークライミングを商標登録して安全なシステムがあることを示したり、海外のアーボリストを招き、登っても安全な樹を見分ける技術を知って

もらったりと、少しずつ応援してくれる人を増やしていきました。

ギヤスライトさんのツリークライミングは05年の愛知万博でも披露され、その安全性が示されている。

## 樹のもたらす効果

ギヤスライトさんは、ツリークライミングが人に及ぼす影響についても研究をおこない、農学博士号を授与されている。

**ギヤスライト** 当初はツリークライミングにセラピー効果があることを示そうとしたのですが、森林セラピーとの差を見つけられずリジェクト(却下)されました。そこで同じ条件で樹とコンクリートに登ったときのホルチゾール値を比較したんです。ホルチゾールとはストレスを感じたと

きに分泌されるホルモン。同じ高さであっても、樹に登ったときとコンクリートに登ったときでは数値に差が現れました。コンクリートでは恐怖を感じる高さでも、樹の上では

心が穏やかなのです。ツリークライミングには何かしら心地よさをもたらす効果があるとわかりました。四角い部屋から出て樹に登れば、今まで感じたことのない大空と自然

を体感できます。樹は一本一本形が違いますから、樹上での姿勢もそのときどきで変わり、受ける印象にも違いが生まれます。そんな空間

ロープや専用の器具を使って安全に昇り降りできるのがツリークライミングの特徴。こんなふうにもみならず登ることも

プログラムの前後では樹に感謝の気持ちを伝える



ギヤスライトさんの取り組みで始まったツリークライミングの技術は、今は日本中の複数の団体に受け継がれ、たくさんの子供たちの木登りのきっかけとなっている。

となるとハードルが高いですが、公園には簡単に行けます。公園に生えている樹に登れば、身近な緑を肌で感じられ、それを大切にしようと思ってしまう。「地球の緑を守ろう」なんて大きな目標はなかなか持てませんが、目の前の樹々を大切にしようという気持ちなら簡単に育めます。そういう気持ちが集まれば、やがて森林保護や海洋保全へとつながっていく。ツリークライミングはそんな可能性を持った最高のレクリエーションだと思います。



100mを超える米カリフォルニア西海岸のセコイアに登るギヤスライトさん。樹の大きさに比べて人の姿がまるで豆粒のようだ